

# 2018札幌支部教育研究集会!



道庁産局から今回のモデル校事業委託先の日本科学振興財団に送付されたメール

「・・・講師の北海道大学の山形先生から同高に送付があり、そのまま当局にも送ってもらいました。ところが、驚きで講演の内容が反原発と

なっておりまして。このため、急ぎ先ほど18時30分頃から1時間半ほど、当局で直接山形先生の所に出向き、「事業の性格として、特定のエネルギーを押すのは良いが、逆に特定のエネルギーをことさらおとしめる講義はやめて欲しい。高校生を対象としている事業なので」とお願いしてきました。そこで事業の執行機関として、そちらからも明日、二セコ高校に対して指導をお願いいたします。取り急ぎ、添付のとおり講演資料を送付しますので、内容を確認してください。・・・」

## 「再生可能エネルギー問題授業の何が問題なのか」

教育の自由・中立性を考える 山形定之(北海道大学)

上のメールは、二セコ町立二セコ高校でのエネルギー問題についての町民にも公開されている講演会授業です。東日本大震災で一度崩れかけた原発安全神話を立て直すために、なりふり構わず突進する権力の意思が、教育への不当な介入という姿に結実してしまいました。

### 突然の訪問、そして・・・

二セコ高校は泊原発から30km圏内にあり、経済産業省の「エネルギー教育モデル校」に選ばれています。町からの依頼をつけた北海道大学の山形定之さんが2017年10月16日に行われる講演の資料を高校に送ったところ、翌日10月12日の午後6時過ぎに研究室に突然電話があり、道庁産局の資源エネルギー環境部長と同環境課長が至急訪問したいと告げられました。10分程度と当初約束した訪問は、1時間以上にわたりました。道庁産局の話は、国の原子力政策に関するもので、山形さんの講演資料に対していろいろと指摘を行い、山形さんは何箇所か資料の変更を余儀なくされました。なかでも重大なも

### 不当性、次第に明らかに

当初、山形さんはこの介入の不当性を明確に意識してはいなかったものの、資料を送った

のは原発の発電コストと福島原発3号機の水素爆発の写真的変更です。山形さんは当初「原発のコストはほんとうに安いのか?」というタイトルの資料に、ある研究者の原発コストの試算表をつけていました。これに対し環境部長は「いろんな見解があり、高いか安いかは一概に言えない」と語調を強めました。山形さんはこの試算表を削除し、タイトルも「原発のコストは?」に変えました。また安全性を考える資料として掲載していた水素爆発の写真的に、「他の電源も事故を起こす。ことさら原発が危ないという印象を与える」と迫りました。山形さんは「実際の原発事故の写真的であり、他の電源の事故と同列に扱う方がむしろ問題だ」と反論しましたが、結局この写真を縮小し、風力発電設備が倒れた事故の写真的などを加えて、当日の講演会を終えました。



授課日に産局の幹部が2名訪れ内容の変更を迫ったのはやはり異常で、何かおかしいと漠然と考えていたそつです。その後、この問題が二セコ町の議会でも取り上げられ、不当な教育への介入ではないかと認識し始めました。12月から翌2018年の3月にかけて町長への一般質問や、3回の住民説明会が開かれました。4月以降名古屋での前川喜平氏の授業に対する文科

省の介入が話題となったこともあり、マスコミ各社がこの問題をとりあげ、全国的にも大きく報道され国会でも取り上げられました。この間、山形さんは厚知安町で2月に実施された道庁産局の補助事業「再生エネルギーセミナー」の講師の一人でしたが、道庁産局から町に講師の変更が求められ、差し替えられました。国会では、冒頭に示した道庁産局広報担当官から今回のモデル校事業の委託先の日本科学振興財団に送付されたメールが開示され、道庁産局介入の狙いが「反原発」は容認できないことにあることが明確になりました。

2018道高教組札幌支部教育研究集会は9月2日の高等学校教職員センターを会場に42名の参加で開催されました。第一部は北海道大学の山形定之さんに自身が経験した二セコ高校でのエネルギー問題授業内容に道庁産局が不当な介入を行った経過について詳細に報告をいただき、教育の自由、中立性についてあらためて考え直す契機となりました。第二部は、高校改訂学習指導要領について本部尾張聡委員長が基調提案・問題提起を行い、第三部の教科等分科会での話し合いにつなげました。

## 理科分科会

今年の札幌支部教理科は、例年通りの楽しいサイエンストークの時間が流れていきました。まずは恒例の三好先生(札幌西退職後市内で時間講師)の実践を紹介してもらいます。「この学校の生徒は反応が少ないんだよねあ」と三好先生。でも、三好先生のすいところには必ず授業の感想をとり、生徒の考えをいっているのを見て、授業の評価をしていっているのを感じます。

テストで何点取れたとか、偏差値が上がったとか、そういう事ではないのです。深く実験から化学の楽しみを伝えてきた三好先生の話にはうならされま。これだけではありません。世界のエネルギー問題について考えさせた授業や、安くてきれいな結晶格子の作り方、パチパチヤリヤリティーを感じるパソコンのソフトなどを見て、語り、時間が経つのも忘れていました。また、合同教研でサイエンストークができることを楽しみにしています。

地歴・公民科分科会は6名の参加でしたが、活発な討議が行われました。全体会での尾張委員長と新学習指導要領の問題点を話し合いました。現場では、大学入試制度の改定や新学習指導要領に関心は大いにあるものの不安が大きくまとまりがない状況だという認識で皆一致しました。「ポートフォリオを作るよう指示されているが、結局業者が入って来ている。その方が楽だ」という認識が現場にはある「という意見に皆頷き、「私の学校では『スタディーサポート』はやめた」という報告には一同感心の声が上がりました。結局、業者が受験産業に深く関わり、教育現場がそれに依存している構図が一層顕著になってきていると感じています。

## 社会科学分科会

ではないか」という意見が出されました。「科目名が自民党の改憲草案と同じだ。教員が主体性を奪われているから、生徒の主体性を養うのは無理だ」という現実を指摘する声が上がりましたが、「それにどう対応するかだ。うちの学校では社会科の教員で語る場を作ろうと思ってる」「校外研修が大事だ。官制研ではない研修(合同教研など)に大いに参加すべきだ」と決意を兼ねた前向きな意見が出されました。授業の工夫も語られ、エネルギーシナメンパーが揃いました。来以降、何とか参加人数を増やしたいと思

丘珠高校 丸山稔

## 道高組教育研究集会

10月14日(日) エルプラザ3F 開場: 9:30 参加費: 1000円  
①シンポジウム 10:00~13:00  
②学習交流会 14:00~16:00  
③終りの集い 16:10~16:30  
\*詳細は道高組札幌支部 HP へアクセス

